

一声社：TEL03-3812-0281/FAX03-3812-0537

今日は何の日？

11月20日は、世界こどもの日（1954年制定）、帝国ホテル開業日（1890年）です。

閑話休題—涙に煙る倉吉駅

モチ期など無縁の人生。学生時代も失恋経験の豊富さを誇り、コンパには欠かせない酒の肴＝話題提供の主として君臨。みんなを楽しませて来たものだ（涙）。

そんな私の数少ない恋人の出身地は、鳥取県だった。「卒業したら終わるから止めとけ」という友人達の忠告も耳に入らず、卒業半年前から付き合い始めた。「愛は遠距離を超える！」という甘い誤解のもとに。

卒業と同時に日本海へと帰って行った彼女。その心を引き付ける僕の磁石は、きっと同極だったのだろう。強力に遠ざかって行った彼女。ひとえに私の魅力の薄さよ。

「ただ春の夜の夢の如し」

卒業から1年半後、予想通り「別れ」を宣告されたが、「そうやろなあ〜」という予感はその3か月くらい前からあったのだ。認めたくなかなっただけで…。

いつものよう連れ（彼女の事も知っている）と飲みながら「もうアカン」と言った時、そいつは怒り出した。

「何を言うてんねん！ そんなええ加減なことでええんか！ 簡単にあきらめるのか？ 会いに行つて来い。何？ 旅費がない？ そんなもんだうにでもなる！ 会つて直接想いを伝えて、直接面と向かつて聞いて来い！」

その連れは、酒の勢いで言っただけではなかった。飲み会の数日後、私に会いに来

たのだ。「はい、これ！」と渡してくれたのは、倉吉駅までの往復の乗車券・急行券・寝台券等だった。

「お金がないんを、何もせんとあきらめる理由にすんなよ。言うとかけど、プレゼントやから返すような失礼なことはしたらアカンでえ」と。

貧乏学生時代に引き続きお金のない生活をしてた私。それでも、倉吉往復くらいは何とか出来ただろう。ただ面と向かつて宣告される意気地がなかなっただけだ。

倉吉で会った彼女とは、もちろん元に戻ることはなかった。頭の中で『なごり雪』が伊勢正三の声で流れ、国鉄倉吉駅は涙で滲んでいたが、それは決して別れの哀しみの涙ではなかった。ここまでしてくれた連れの想い、切符まで用意して「きちんと別れる」様にしてくれた温かさに対する涙だったのだ。

鳥取にまだ「すなば珈琲」がない頃、JRさえない頃。『哀しみ本線日本海』に乗って、古都奈良へと帰って行ったヨネやん。「春は未だ遠い」ようです。

一声社 NEWS

『ハンカチでおはなし』（藤田浩子）

好評発売中！ 保育園・幼稚園・特別支援学校からの注文も増えています。

★トリコットハーフ 扱い始めました！

本書の遊びで使うふわふわの布（トリコットハーフ）。一声社で扱います。

*Aセット…10色各3枚・計30枚

*Bセット…赤・黄色各15枚・計30枚
各本体1,000円です。

●シリーズ1巻『あやとりでおはなし』

こちらもぜひ一緒に！